

# 南区星崎学区 近所の力で命を守る助け合いマップ

各家庭で必要事項を記入し冷蔵庫などよく目につくところに掲示しましょう。

## 地震発生時の避難行動

地震発生！揺れた！！

(各家庭で行うこと)

- 家具から離れ、頭を守り、揺れがおさまるまで待つ



地域からのメッセージ

まずは自分自身の安全確保！  
事前に家具・家電の転倒防止対策をしておこう！

揺れがおさまった！！

- 火の元の確認、出火したら初期消火
- 靴やスリッパを履き、出入口の確保
- テレビ、ラジオ、スマホから正しい情報の入手
- 無事を知らせるタオルを門扉などに掲示

持ち出す物を事前に検討しておこう！  
避難の際は電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるのを忘れずに！

一時(いつとき)集合場所

に集合

## 大津波警報発表

隣近所で助け合い！！

(近所で行うこと)

- 火が出たら、消火器を活用して消火する
- 二次災害に気をつけながら、元気な人で人命救助を！
- 各町内会の自主防災会現地対策本部で安否情報を集約

基本は助け合い！  
日頃から消火器の位置を確認しておこう！  
一時集合場所に集合して、一人では行動しない！

さあ、避難だ！！

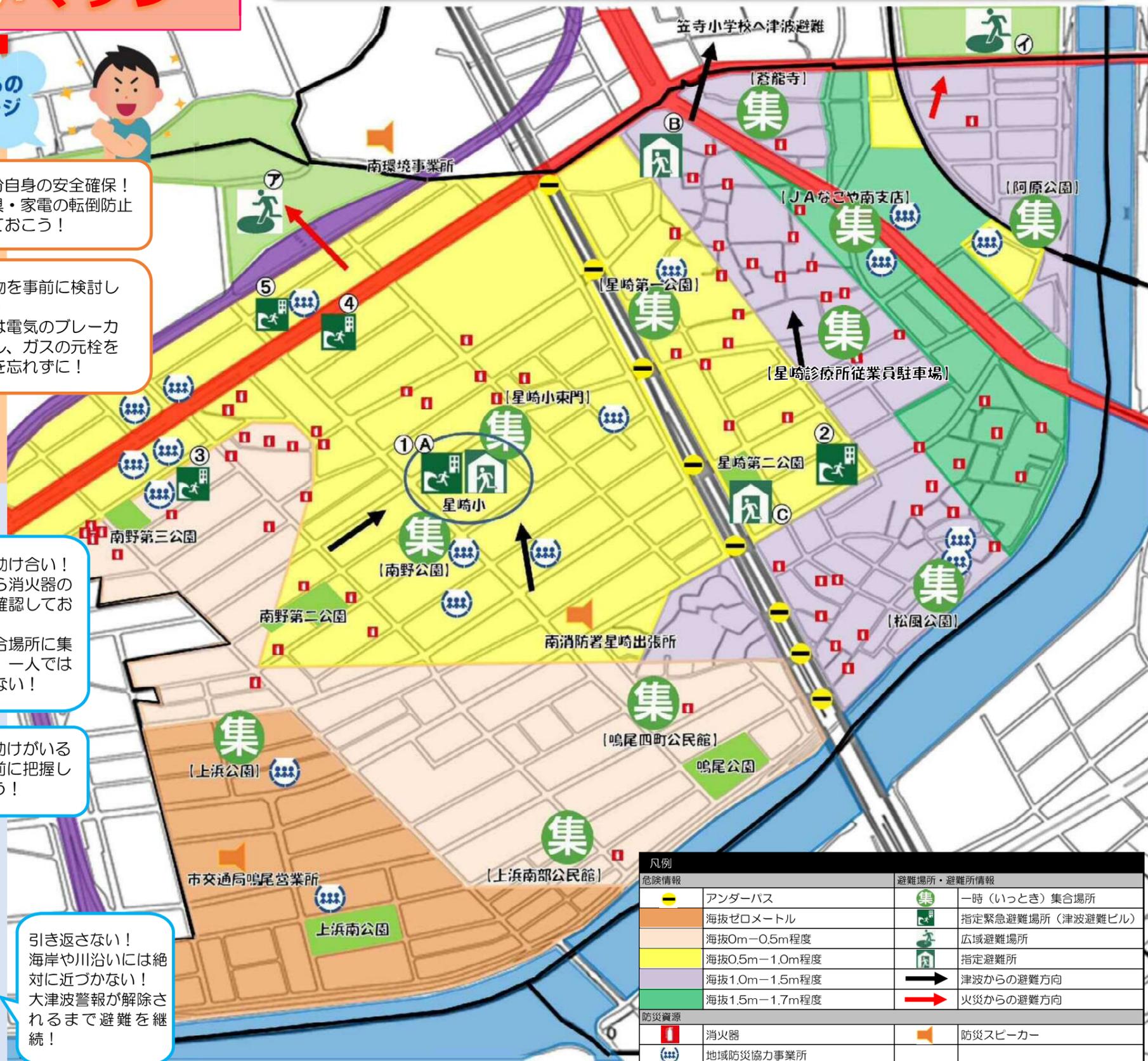
- 一人では逃げられない方などの避難誘導を！
- 原則、徒歩で避難

避難に助けがいる人を事前に把握しておこう！

浸水想定区域外や津波避難ビルなど高い建物へ

	津波の場合	余震・大規模火災の場合
自宅にとどまると命を守れない場合 (指定緊急避難場所)		
自宅が被災して住めなくなった場合 (指定避難所)		

引き返さない！  
海岸や川沿いには絶対に近づかない！  
大津波警報が解除されるまで避難を継続！



凡例		避難場所・避難所情報	
危険情報			
アンダーパス	一時(いつとき)集合場所		
海抜ゼロメートル	指定緊急避難場所(津波避難ビル)		
海抜0m-0.5m程度	広域避難場所		
海抜0.5m-1.0m程度	指定避難所		
海抜1.0m-1.5m程度	津波からの避難方向		
海抜1.5m-1.7m程度	火災からの避難方向		
防災資源			
消火器			防災スピーカー
地域防災協力事業所			

# 星崎学区 震災時の行動要領

- ①町内会ごとの一時集合場所に地域の住民が集まります。
- ②一時集合場所に集まった住民で被害情報を集めたり、情報伝達を行います。
- ③避難する際は、**門扉にタオルを掛け無事を知らせましょう。**
- ④救助が必要な人を見つけたら、**周りに声かけをして力を合わせて助けましょう。**
- ⑤火災に注意！火災を見つけたときは**声をかけ合って消火**しましょう。

## 大地震が起こったら、動ける人は一時集合場所へ集まりましょう！

星崎学区では大地震発生時に、隣近所で協力して安否確認や救助活動を行うために、動くことができる住民は町内会ごとの一時集合場所に集まります。自宅が被災するなど自宅にとどまると命を守れない場合は、バラバラに避難をせず、一時集合場所に集まってみんなで避難しましょう。在宅避難する人も必要な物資の支給を受けるために、「在宅避難すること」を一時集合場所に伝えましょう。

自分の町内の一時集合場所を確認して地図面に記入しましょう！



## もし南海トラフ巨大地震が発生したら・・・

星崎学区被害想定	最大震度は？	6強（立っていることができず、はわないと動くことができない） 7（揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない）				
	液状化は？	可能性大 （学区西部から南部の広い範囲で液状化現象の可能性が高い）				
	津波想定は？※	2m	1.5m	1.0m	0.5m	0.3m
	火災延焼は？	学区東部では火災が延焼し、強く熱風が吹き荒れるおそれあり				

※津波想定は裏面地図の海拔もご参照ください。

自宅の状況	耐震化していますか？	していない場合は倒壊の可能性が高くなります。
	家具の転倒防止をしていますか？	していない場合は家具の下敷きになる可能性が高くなります。
	お住まいの階は？	津波想定の高さによっては、浸水の可能性があります。

星崎学区の被害想定と自宅の状況から各家庭での被害を想定し、どこに避難するか考えておきましょう。⇒**地図面に記入して、自宅の目につくところに掲示しておきましょう。**

指定緊急避難場所	命を守るため、災害の危険からまずは逃げるための場所	津波の場合 （津波避難ビル） 
		余震・大規模火災の場合 （広域避難場所） 
指定避難所	自宅が被災して帰宅できない場合、一定期間、避難生活を送るためのところ	

### ◆助け合いの5原則

- ①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る！
- ②自分の身を守り、家族や自宅の安全を確認！
- ③隣近所の状況確認をしながら一時集合場所へ集まる！
- ④火がでていたら初期消火！挟まれている人がいたら救出救護！
- ⑤助け合いながら安全な場所へ避難！

### ◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を！

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、右記のことを心がけましょう。



高齢者や障害のあるかたなどが取り残されていないか確認しよう！

周囲に在宅避難を知らせよう！

周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう！

### ◆避難所・避難場所情報



学区内の津波避難ビル

施設名称	収容人数
① 星崎小学校	1,162人
② グランピア星崎	12人
③ 星崎運輸	100人
④ 中部工業(株)	180人
⑤ 大丸星崎店	8,511人



学区周辺の広域避難場所

施設名称	余震	大規模火災
㊦ 大江川緑地一帯	○	○
㊧ 名南工業高校	○	○



学区内の指定避難所

施設名称	収容人数
㊦ 星崎小学校	275人
㊧ 星崎学区公民館	50人
㊨ 星崎コミュニティセンター	76人



90分以内に避難！

災害ごとに適した指定緊急避難場所へ

災害のおそれが去った後

指定避難所へ